

長野県青木村との連携概要書

自然の恵みを活かした魅力的なまち



青木村

急峻な青木三山に囲まれ、美しい田園風景を残した青木村は、千三百余昔の白鳳時代に開通した東山道が村を縦貫したことにより、京の文化の影響をいち早く受け、見返りの塔として讃えられる「国宝大法寺三重塔」の建立に見られるように豊かな歴史と文化が花開いた村。地方創生の流れの中、今、青木村では「重点道の駅」を核に、情報発信基地、農業・観光・交流・防災・住民サービスの拠点整備に加え、新青木トンネルの建設に向けた動きが拍車をかけ、新しいステージが始まろうとしている。



青木村特産そば
好アネの白い花と
赤い実



国宝
大法寺三重塔



“日本一住みたい田舎”の総合戦略

◎信州・青木村 “日本一住みたい田舎”の総合戦略

- ①青木村らしい仕事づくり。
- ②地方への新しい人の流れ。
- ③若い世代の結婚・出産・子育て支援
- ④時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する。

- ◎地 勢 東西約8km 南北約10.4km 面積57.09km²
- ◎人 口 4,538人(世帯数1,741戸) 人口はやや減少傾向にあるものの、世帯数は増加しつつある。年齢別転出入者を比較すると、30歳以上層ではいずれも転入者が転出者を上回っている。村内に在住する外国人は28名(平成27年12月末現在)である。
- ◎交 通 長野県の東部、上田市から西方約12kmに位置。首都東京から電車等で約2時間、上越自動車道上田菅平ICからは30分、長野自動車道麻績ICから30分。上田駅からは直通バスが運行。***現在、国道143号線 青木峠新トンネルの建設に向け調査が始まり、完成すると松本市・安曇野市=上田市間の所要時間は約30分短縮。松本市、安曇野市から首都圏への人の動き並びに上田地域=松本・安曇野地域間で経済交流の活性化が期待される***
- ◎産 業 基幹産業は農業であり、米、きのこ、花卉、果樹などを生産している。産業別従事者数の推移をみると、年を経るごとに減少し、特に、第1次産業従事者の減少が目立つ。

東京農業大学との関係

進士元学長による視察・講演会。農大生による小中学生・地域との交流



ふるさと公園あおきの計画地を視察する進士元学長



全学応援団リーダー研修(青木村沓掛温泉)

東京農業大学出身者

- 北村政夫(青木村長)
 - 船田寿夫(信州うえだファーム常務取締役)
 - 小林洋一(JA信州うえだ 営農部長)
 - 笹沢一晃(同JA 総務企画部課長代理)
 - 山崎元雄(同JA 生活部長・健康福祉部長)
 - 古平直幸(同JA 農産流通センター長)
 - 石井公彦(信州上小森林組合 参事)
 - 召田裕治(同上 川東支所長)
 - 吉池大和(同上 依田窪支所技師)
 - 荻原武彦(同上 上田支所班長)
- 他 JA、農家組合員に卒業生多数

今後の交流の可能性

- ◎農大オープンカレッジへの協力
- ◎農大生のフィールド調査地(今年度から予定)
国際農業開発学科 杉原たまえ教授・岩本純明教授・飯森文平助教
- ◎留学生の短期研修プログラム実習地(今年度から予定)
国際バイオビジネス学科 稲泉博己教授(国際交流センター)
- ◎青木村産農産物の提供 農大のイベントなどでの販売
- ◎青木村産農産物を利用した 魅力ある食品加工の研究協力
- ◎女性の農業分野への進出支援 ◎中山間地域農業持続への共同事業
- ◎農大教授等による村民向け講演会の開催 ◎農大生の調査・合宿・研修地

- ◆東京農業大学の窓口教員
国際食料情報学部：稲泉博己教授(国際協力センター)、杉原たまえ教授、岩本純明教授
飯森文平助教、立岩寿一教授
- ◆青木村の担当窓口 青木村役場 建設産業課 清水地域農業マネージャー
〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111番地
Tel.0268-49-0111 Fax49-3670
E-mail:webmaster@vill.aoki.naganano.jp